



組合主催の「総合防災訓練」を実施して

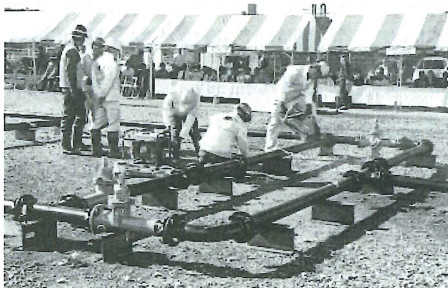
～宇都宮市管工事業協同組合～



訓示を述べる和田災害対策本部長



挨拶する塚田市上下水道事業管理者



配水管に切れ目を入れる訓練参加者



見学者用テントの様子

令和元年10月26日(土)に宇都宮市上下水道局下河原水再生センター北側の敷地にて

宇都宮市管工事業協同組合（理事長 和田 均）主催の「総合防災訓練」が実施されました。

当日は、組合員、組合職員のほか、大田原管工事工業協同組合が応援に駆け付け、塚田宇都宮市上下水道事業管理者をはじめとする市上下水道局職員などの来

賓の方々及び商社・メーカー、市民などの招待者総勢約200名が参加しました。

訓練の開始にあたり、和田災害対策本部長は「市民の安全で安心な暮らしを支えるライフラインを確保するため、これまで以上の緊張感をもって取り組んでほしい。」と訓示。また、塚田市上下水道事業管理者は「官民連携による広域的で強固な災害対応体制の構築につながると



配水管漏水修理(宇管工青年部)



仮設給水栓設置(宇管工青年部)



不断水バルブ(組合員)



応急給水訓練(市民参加)

確信している。」と佐藤栄一宇都宮市長のメッセージを読み上げました。

訓練は、宇都宮市域を震源とする東日本大震災規模の「震度6強」の地震が発生し水道管路、施設等に甚大な被害が生じたことを想定し開始されました。

最初の「参集訓練」は、宇都宮市管工事業協同組合員約90名のほか、大田原管工事工業協同組合員7名が参加し、迅速な集合と人数が報告されました。

続いて実施された「応急復旧訓練」は、訓練会場で組み立てた口径100mm、総延長約52mの配水管を使って、「漏水復旧訓練」「仮設給水栓設置訓練」

「凍結工法訓練」「不断水バルブ工法訓練」の4つの訓練が連続して実施されました。

最後に実施された「応急給水訓練」は、組合所有の容量2tのステンレス製災害用給水タンク搭載のユニック車を出動させ、6ℓのポリ給水袋に給水し見学者や関係者に配布されました。

訓練終了後、和田本部長は「管工事のプロ集団の名にふさわしく持ちうる技術と能力を遺憾なく発揮し、全ての訓練が迅速かつ的確にできたことは、大きな成果であり大変意義深い訓練であった。」と講評した。